

## 黒毛和種肥育牛への圧ペン飼料米給与は 最大 33%の代替給与が可能

宮城県は全国有数の飼料用米生産県となっていますが、黒毛和種肥育牛への飼料用米の給与に関する情報は少ない状況です。そこで、宮城県畜産試験場では、濃厚飼料に対する飼料用米の代替率を最大 33%まで高める給与技術を開発するとともに、飼料用米の多給が肥育牛の発育、枝肉格付成績、肉質等へ及ぼす影響を検討し、飼料用米給与による肥育技術体系を確立しましたので紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 黒毛和種肥育牛へ肥育全期間または肥育出荷前 5 ヶ月間に蒸気圧ペン粃米（品種：べこあおば）を原物重量比で市販配合飼料の最大 33%代替し、大豆粕で蛋白質成分を補正給与しても、市販配合飼料給与（対照区）に比べて、肥育牛の採食量、枝肉重量および枝肉格付成績（BCS No.を除く）では有意な差はありませんでした。
2. なお、各肥育試験区には黒毛和種肥育牛 7 頭を供試し、配合飼料（原物比）には、9 から 10 ヶ月齢までは市販の育成配合飼料（TDN70%、CP19%）を、11 ヶ月齢以降は切替期間を 3 ヶ月間とし、市販の肥育配合飼料（TDN70%、CP12%）を給与しました。
3. 牛肉の脂肪酸組成では、おいしさに影響するオレイン酸や一価不飽和脂肪酸（MUFA）に有意な差はありませんでした。
4. 牛肉の消費者型官能評価での「甘い香り」の評価は、肥育出荷前 5 ヶ月間の蒸気圧ペン粃米 33%代替区が対照区に比べ高い評価を得ました。



図1 蒸気圧ペン飼料米（品種べこごのみ）



図2 岩出山牧場での給与試験状況



図3 飼料米給与の枝肉断面図

### ☆ 活用面での留意点

この蒸気圧ペン粃米の利用には、大豆粕など蛋白質成分の高い飼料を併用し、肥育牛の養分要求率を充足させる必要があります。また、配合設計や個体などによっては採食量に影響を及ぼす可能性があるため、慣らし給与期間を十分取るなどして注意してください。なお、詳しくは、宮城県畜産試験場酪農肉牛部 石黒裕敏（Tel 0229-72-3101）にお問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男）